

## わくわくパーク（あそびの広場）・幼児とのふれあい体験活動

広島県安芸郡海田町立海田西中学校

### 学校の概要

#### 学校規模

学級数：10学級(内特殊学級1学級)

生徒数：288人

教職員数：32人

#### 体験活動の観点からみた学校環境

海田町は、広島市の東側に隣接し人口約3万人の町である。

近くには保育所、小学校、高等学校及び社会教育施設が隣接しており、町の文化ゾーンに位置している。

特色ある学校づくりの一環として各学年で多種多様な体験活動を実施し、また生徒会が中心となり各種行事に合わせて積極的にボランティア活動を実施するとともに、総合的な学習の時間のカリキュラム開発研究において保育体験学習を取り入れた研究が行われるなど保育体験学習についての教職員及び生徒の関心が高まってきている。

町の福祉課に安芸郡保育連盟が位置づけられており保育等に関する教育研究も盛んである。各保育所においても地域との接点を求めての様々な活動が実施しており、中学生の保育実習も積極的に受け入れている。

#### 連絡先

〒736-0052

広島県安芸郡海田町南つくも町2-2

電話：082-823-8551

FAX：082-822-3165

ホームページ：

<http://www.kaitanishi-j.ed.jp/>

電子メール：

[info@j-nishi.town.kaita.hiroshima.jp](mailto:info@j-nishi.town.kaita.hiroshima.jp)

### 体験活動の概要

#### 活動のねらい

保育園児を学校へ招き、「あそびの広場」を展開する体験活動について、生徒自ら課題を設定し、それについて調べ、考えることができる力を身に付ける。

幼児とふれあうことで、自己の成長を振り返り、幼児に対して積極的に関わりを持つとする態度を身に付ける。

#### 主な活動内容・方法

3年生が保育実習で交流のある町内3カ所の保育園児（年長）を学校へ招き、設定した「あそびの広場」で、幼児とのふれあいを行う。

方法は全員で歌遊び・ゲームなどを行い、中学生と幼児がペアを組み、会場内に設置した各コーナーの遊びを体験させながら案内をする。

「あそびの広場」設置のための企画・運営など交流のために必要な取り組みを考える。

#### 活動の成果等

保育学習・実習を通して、幼児理解が深まり、生徒の主体的な活動を引き出すことができた。

相手（幼児）の気持ちを考え、招く立場になって積極的に取り組もうとすることができ、さらに自分たちの喜びにも変化していくことを体験できた。

体験活動が次の学習課題（保育実習等）への意欲につながった。

進路や自分の将来など、自己の生き方について考えることにつながった。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

ア 保育園児を学校へ招く体験学習について生徒自ら課題を見つけ、それについて自分で調べ、考えることができる力を身に付ける。

イ 保育園児を学校に招く「遊び」の活動を通して幼児とふれあうことで、自己の成長を振り返り、幼児に対して積極的に関わりを持つようとする態度を身に付ける。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「わくわくパーク(あそびの広場)・幼児とのふれあい体験活動」

#### イ 実施学年

第3学年

#### ウ 活動内容

当日までの取組：当日のふれあい活動を円滑に行うために、運営委員を中心に各係に分かれ、企画を練って準備をする。(全体の会・体験広場・案内等)

当日の交流体験活動：全体の会(歌・手遊びうた)、体験広場(作って遊ぼう・ゲームで遊ぼう)中学生と幼児がペアになり、会場内に設けたふれあい広場で交流を図る。

体験活動後の取組み：体験活動の成果を、他学年の生徒、保護者、地域の方に対して、文化祭で発表を行う。

#### エ 教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間で扱う。(事前の技術・家庭科の授業における保育実習を通して、体験的に身に付けた力を総合的な学習の時間において生かす。)

#### オ 実施時期(日数や時間数)

(ア) 期間：9月20日から11月2日まで(短期集中型)

(イ) 時間数：総合的な学習の時間 19時間

#### カ 活動場所

本校体育館及び格技場

#### キ 継続の状況等

事前に技術・家庭科で「保育」についての学習を行う中で1回目保育実習(6月)を体験した。また、小グループで調べ学習を行い、保育についての学習を深めた。

事後、総合的な学習の時間で身に付けた力を2回目保育実習(12月)の取り組みに発展させた。


## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ア 「保育」についての学習

本校では、技術・家庭科の授業で、6月に1回目の保育実習を行っている。この学習によって、幼児とのふれあいについての不安を取り除くことができ、幼児への優しい気持ちが育ち、接し方もある程度理解ができた。また、生徒一人一人に保育に関する課題を持たせる場ともなり、総合的な学習の時間における主体的な学習へと発展させることができた。

#### イ 活動計画

月日	時 間	内 容
9/20	第 1 校時	・学年ガイダンス（学習のねらいの説明） ・昨年度のなかよしランドのVTRの視聴 ・「総合的な学習の時間」についての説明 ・講演会についての説明
9/25	第 5 校時	・講演会( 保育所所長：幼児への関わり方や遊びについてなど)
9/27	第 6 校時	・授業の感想を書く ・幼児を招く会を開く上で必要なこと（ルールやマナー，企画製作物，準備物，係等）を決定する ・実行委員を選出する（各クラス2～4名）
9/28	放課後 ( 実行委員会 )	・ふれあい体験活動の名称を決定する ・ふれあい体験活動の内容を検討する ・係を絞り込み，仕事内容を決定する
10/4	第 6 校時	・実行委員より報告を聞く ・希望の係を決定する ・各係で活動内容を話し合う ・企画書を具体的に書く
		 【制作風景】
10/6	第 2 , 3 校時	係会 各係に別れ企画を出し，内容を話し合う 役割分担（責任者など）を決定し，活動に使うものを製作し始める
10/12	第 3 , 4 校時	係会 打合せと製作
10/16	第 5 , 6 校時	係会 打合せと製作
10/22	第 4 ～ 6 校時	係会 打合せと製作，飾りつけ
10/23	第 1 校時	各係で最終確認打合せ準備
	第 2 , 3 校時	本番
	第 4 校時	後片付け
	第 5 校時	まとめ・感想を書き，自己評価する
10/23	放課後 ( 実行委発表者 )	・文化祭に向けて発表する内容を話し合う ・発表の役割分担を決定する ・発表原稿を書く
10/25	放課後 ( 発表者 )	・原稿の見直し ・発表のリハーサル
10/30	放課後 ( 発表者 )	・発表のリハーサル
10/31	第 6 校時	学年での発表会（文化祭発表のリハーサル）
11/2		文化祭発表

## ( 2 ) 活動の展開

### ア 保育所との打合せ事項

保育所と検討した項目は，テーマ設定，実施時期，3つの保育所ごとのねらいや内容，参加人数，中学校までの移動方法などについてである。

### イ 「あそびの広場を開こう」までの流れ

企画を考える      テーマ，係の決定      役割の決定      製作及び準備

生徒の(各係)の動き及び教師の支援

係名	当日まで	当日	教師の支援
司会進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>各係への連絡, 伝達</li> <li>当日のプログラム企画</li> <li>進行(マイク, CDの準備)</li> <li>会場の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の進行, 司会</li> <li>園児のお迎え, 見送り</li> <li>各園でのゲームのリーダー</li> <li>全体の誘導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会がスムーズに進行するように支援する (あいさつ, うた, ゲーム, 曲選び, 着ぐるみ等)</li> <li>楽しい会になるよう率先して雰囲気作りをさせる</li> </ul>
案内準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館の飾り付け製作</li> <li>立て看板準備</li> <li>美術部制作の絵を展示</li> <li>園児用のワッペン, ポシエット, スタンプカードを製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児にポシエットとワッペン, スタンプカードを渡す</li> <li>園児と1対1のペアを組み, 会場内を一緒にコーナーで遊びながらまわる</li> <li>各コーナーでスタンプを押してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアがすぐ決まるように考える。</li> <li>会場全体を園児を誘導してまわらせる。</li> <li>安全に気をつけながら, 園児のペースでまわらせる。</li> </ul>
もの作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループに分かれゲームを製作する</li> <li>材料の準備</li> <li>会場の準備, 飾りつけ</li> <li>段ボール遊具すべり台の製作</li> <li>ぬりえの準備 (下書き, 色鉛筆, 敷き紙の準備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場でコーナーの設置, 準備</li> <li>すべり台の設置 楽器作り(全体会で使用) 宙返りうさぎ, かえる おりがみ お絵かき フリスビー, まわる遊園地 園児と一緒に工作をしながら教える側にまわる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく作れるように,</li> <li>安全に注意させる</li> <li>遊びを引き出させるような, 遊べる工作を考えさせる(身近な素材を使う)</li> <li>楽しい製作会場になるように考えさせる</li> <li>楽しく塗れるように種類を数多く準備させる</li> </ul>
ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームの試作</li> <li>ゲームの製作</li> <li>会場準備, 飾りつけ</li> <li>景品の準備 (園児にとって楽しいゲームを考える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームコーナーの設置</li> <li>飾りつけ ペットボトルボーリング ピンゴ輪投げ 宝さがし キックターゲット さいころ1だし スペシャルすくい</li> <li>遊びの支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びやすい, 楽しい, 安全, 壊れにくいなどを考慮しながら試作し, 改良を加えながら製作させる</li> <li>園児に興味を持たせるような看板作りをさせる</li> <li>園児が楽しむことができるように, 遊び方やルールを考えさせる</li> </ul>



【当日のようす(全体の会)】



【体験広場のようす】



【生徒製作すべりだい】

### (3) 事後指導

このふれあい活動後、2回目の保育実習への意欲に高まりが見られ、生徒自らが主体的に課題を設定し、ふれあい活動を展開していくなど、幼児に対しての見方に変化があり、積極的に幼児と関わろうとする気持ちが表れるようになった。

#### 2 体験活動のための体制

##### (1) 学校と保育所との連携

招待する保育所とは、技術・家庭科の授業において2回の保育実習を通じて連携をとっており、年度当初の行事予定に組み込んでもらう。

保育所所長さんに講師（幼児理解、簡単な手遊び、歌遊びの講習）などをお願いする。

##### (2) その他

安全面については、保育園児を学校へ招待するため、特に案内をする中学生の活動に配慮する必要がある。

#### 3 成果と課題

##### (1) 成果

- ・ 保育実習を通して幼児へのふれあいについての不安を取り除いていたこと、幼児への優しい気持ちが育ち、接し方もある程度理解ができていたこともあり、生徒の主体的な活動を引き出すことができた。例えば幼児期に適した遊びのアイデアがたくさん出されたことなどである。



- ・ 「幼児を招待するために何ができるかを考える」という課題の事前学習として行った保育所所長による講演は、幼児の様子を知ることができ、園児を招く側として相手の気持ちを考え、幼児を喜ばせることに積極的に取り組もうとすることができた。また、この学習から学んだことを次の課題「あそびの広場」に発展させようとする生徒もいた。
- ・ 幼児を招き喜ばせるという最終的な課題に対し、自分たちの発想で工夫をこらして取り組み、よりよいものを作り出そうとする姿勢（放課後や家に帰って製作した、何回も改良を加え作り直した、など）が随所に見られた。
- ・ 各グループでの企画や製作の話し合いを通して、自分の発想を相手に伝えることを繰り返すとともに、他者の発想を理解して自らの考えと組み合わせるなど、わくわくパーク（あそびの広場）の設定に向けて生き生きとした表情で会話する姿がみられた。
- ・ これまで行事などに対して受動的であった生徒が、園児に対して「何かをしてあげる」ことで、相手に喜んでもらうばかりか自分たちの喜びにも変化していくことを体験できた。それぞれの持ち場において自分たちの長所を生かした取組みを行い、催し全体として当初のねらいを達成できた。

以上のことから、保育実習を発展的に取り上げることで、生徒は主体的に問題解決学習に取り組むことができたといえる。「中学校生活でこれほど熱中したことはなかった」という感想を多くの生徒が書いており、今回の保育体験学習は、正に主体的な学習となった。

また、この学習をきっかけに「進路について真剣に考え保育士をめざしたい」、「福祉関係の仕事で人のために役に立ちたい」などと自分なりの生き方を考え始めた生徒も見られた。保育体験学習は、自己の生き方について考えることにもつながる一面を持っているともいえる。

保育所の先生方からは、「中学生が子どもたちをしっかりと受け入れており、子どもたちの動きに合わせていた。中学生が一生懸命取り組んでいることを感じました。」「5歳児の発達をとらえていて、難しすぎたり優しすぎたりすることもなく、どのコーナーでも夢中になって遊ぶことができました。」「1対1で行動してくれて園児の目線の高さで話をしたり、時にはだっこやおんぶ等でふれあうなど中学生もしっかりと楽しんで関わっている姿が印象的でした。」「工作やゲーム等も子どもたちが自由な発想で作ることができる部分もありながら、中学生と一緒に作ってもらえる満足感も得ることができたようです。また各コーナーごとに工夫されたあそびや飾り付け等があり、子どもたちにとっては本当に『わくわく』がいっぱいの1日だったと思います。」などの感想をいただいた。

## (2) 課題

- ・ 教科間の連携を調整し学習を深めていくこと
- ・ 保育所との連絡調整，実施方法などについて生徒が行うことのできる活動を取り入れていくこと
- ・ 「あそびの広場」の制作などは生徒が主体的に取り組むことができたが，全体の場での積極的なあいさつなど，社会性を養う必要がある。

## 5 今後の取組みの方向

### 次年度に向けての改善の方向

新学習指導要領全面実施後の教育課程においても，保育体験については3学年の同様の時期に行うのがよいと考えている。また1学年，2学年の体験学習とのねらいや内容の関連を整理し，生徒が自ら考え行動し，実践を振り返り自己を高めていこうとする態度の育成を図るとともに，各教科・領域においても主体的に学ぶ力を育成していきたい。

### 【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は，中学3年生が，町内3か所の保育所の幼児を学校に招き，生徒たちが作った『遊びの広場』で幼児とのふれあう体験である。この体験活動の前後に，保育所での保育実習を二度にわたって行っているのも，本校の特色である。このように，中学生が幼児のための遊びの場を自分たちで考えて工夫することを中心にした交流は，自己理解や人間理解を深めるとともに，生徒の活動意欲や自主性を伸ばす上でも価値がある。

こうした体験を，単なるイベントで終わらせないためには，本校のように保育実習による学びやガイダンスの充実が大切である。また，交流体験を教科等の学習活動とも関連させ，自己成長や子育ての意義についての理解を深め，自己の生き方を深める発展的な取組が重要である。

なお，幼児との交流の場合，その安全配慮には十分な注意が必要であり，本事例にもあるように保護者，地域の人々や関係機関の力を借りることが大切である。